

No.	4	田中 健次
質問事項	1	登録文化財について
<p>文化財登録制度は、1996年（平成8年）に文化財保護法が21年ぶりに改正されて、制定されたもので、建築後50年以上の文化財を活用しながら残す制度で、内部を改装したり、外観も4分の1までなら届出なしで改造できるなど、指定制度より穏やかに守っていく制度です。山口県では萩市の明倫小学校本館を第1号とし、防府天満宮の本殿・幣殿・拝殿が県内67番目の登録となっています。歴史的な遺産の多い防府市は、文化の薫るまちとして観光施策にも力を注いでいます。文化財登録制度を活用し、市が率先し、所有・管理している建造物の中から、価値のあるものを、登録文化財にしていくべきです。</p> <p>具体的には、以下の3点について、質問します。</p> <p>(1) これまでの登録の状況はどうなっているか。</p> <p>(2) 今後の登録の予定について、現時点でどうなっているのか。</p> <p>(3) 防府市公会堂の登録について、いかがお考えでしょうか。</p> <p>防府市公会堂は、高名な建築家である佐藤武夫氏の設計により1960年（昭和35年）10月に建設されました。佐藤氏は、早稲田大学建築科の出身で、重要文化財となっている早稲田大学大隈講堂の設計者として知られ、早稲田大学で教鞭をとり、建築音響学の草分けとして活躍し、日比谷公会堂、岩国徴古館、旭川市庁舎、北海道開拓記念館など、多くの公共建築を手がけ、私大出身者としてはじめて建築学会会長に選任されました。「市庁舎建築でロマン主義的な塔屋をもつプロトタイプをつくり出したことは特筆に値する。」（『現代日本朝日人物事典』）と佐藤氏の業績が評価されています。</p> <p>防府市公会堂は、佐藤氏の建築のシンボルでもある塔を、時計塔として持っており、また音響的にも優れたものです。また、『佐藤武夫作品集』、『火燈窓』（佐藤氏の著作）にも掲載されている佐藤氏の代表作の一つであり、ぜひとも登録文化財とすべき建築物です。</p>		